

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

令和5年2月2日 VOL. 173

介護さわやか相談員と受入施設職員による意見交換会を開催

グループでの活発な意見交換

令和4年12月12日(月)藤枝市役所5階大会議室において、さわやか相談員の資質向上と施設におけるサービスの質の向上を“ともに”考えることを目的に意見交換会を開催しました。介護さわやか相談員の訪問の受け入れをしている市内の施設25カ所から、施設長や介護長、ケアマネジャーや生活相談員ら14名が参加、介護さわやか相談員と合わせて29名が小グループに分かれ、「コロナ禍における施設でのレクリエーションの内容と実施方法」と「コロナ禍における利用者等とのコミュニケーション」のテーマについて課題や工夫していることを話し合いました。



↑
←意見交換の様子

施設での工夫

テーマ1：コロナ禍における施設でのレクリエーションの内容と実施方法

- デイサービスでは一緒に過ごす相手との関係を大切に考えている。内容は制限されることもあるが、密を避けて実施できるもので、一人一人が好きなことを見つけて活動している。
- これまでのような外出のレクリエーションが減っており、季節感を取り入れた内容で楽しんでもらったり、「今日は何をしようか。」と利用者の希望を聞きながら実施している。

テーマ2：コロナ禍における利用者等とのコミュニケーション

- 同じ施設内1階のデイサービスへ月1回程度参加し、デイサービスの利用者と歌や体操を通じて交流している。
- グループホームで行ったレクの様子や表情が良い写真を家族にLINEで送信している。
- タブレットによるオンライン面会を実施している。
- 家族が利用者と面会できるよう、検温とワクチン接種済であることを確認し、施設の玄関を面会室としている。
- 面会はできないが、利用者には電話で家族と話をしてもらおうと、利用者は嬉しそうで笑顔になる。

参加した施設職員からは意見交換会で「他施設の取組や大切にしていることや悩んでいることを共有できた」、「同じ種別の施設の考えを聞いて参考になった」等の声がありました。介護さわやか相談員もコロナ禍における施設の取組や悩みを聞き意見を出し合うことで、訪問する施設の取組の理解へとつながりました。